

[FS]雲仙仁田峠の渋滞緩和に向けた社会実験(長崎県雲仙市)

1. 実験概要、留意すべき事項

- 毎年、秋の紅葉シーズンに交通渋滞が発生しているため、駐車場利用状況、滞在時間、利用目的等の実態調査、渋滞緩和の方策について検討し、実証実験の有効性、実行可能性について検証する。
- AI、ICTを活用した観光渋滞対策に加え、駐車場や渋滞のリアルタイム情報の把握、駐車場の利用時間別有料制の検討につながる調査メニューとなっていること。

2. 今年度の調査内容、調査結果

【渋滞状況調査】

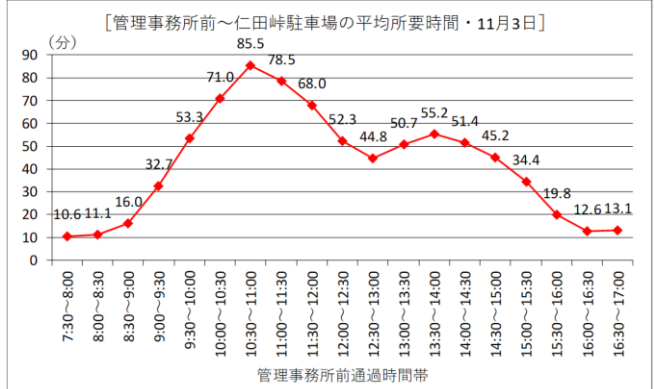
- ① ナンバープレート調査⇒**3時間以上の長時間駐車車両は、午前9時頃までに来訪**
 ⇒**来訪車両の5～9%を占める長時間駐車車両が駐車場の約半分を占拠**
 ⇒**午前9時頃から渋滞が発生、仁田峠駐車場まで最長85分、渋滞長は1500m超え**

【意識調査】

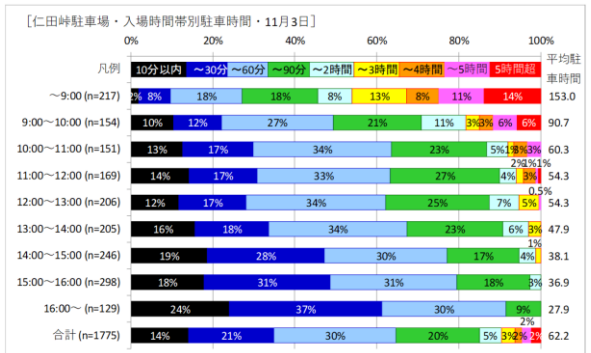
- ① ヒアリング調査⇒**登山目的の到着時間は、ほぼ全員が午前中を希望**
 ⇒**交通対策に対する支払い意思は、500円までは5割、それを超えると急激に低下**

【ETC2.0の活用】

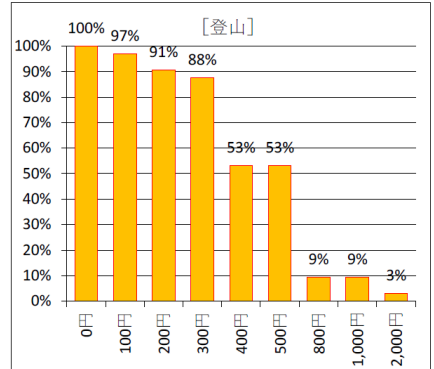
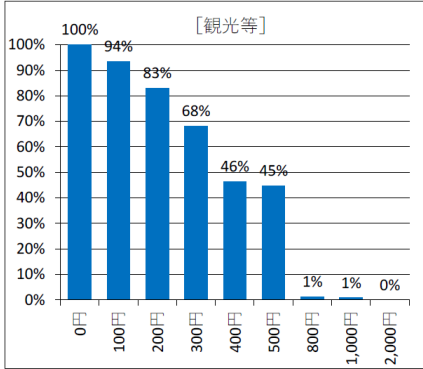
- ① 車両の速度データを取得⇒**9時～16時頃まで、渋滞が発生**



管理事務所～仁田峠駐車場までの所要時間



駐車時間の分布



支払い意思額

3. 次年度の社会実験に向けて

R2年度は、一旦中止

実験メニュー	実験内容
事前予約制(仁田峠駐車場、パーク&バスライド)	<ul style="list-style-type: none">予約システムの導入、料金徴収を10～11月の渋滞発生予想日に実施仁田峠駐車場は、500円/台長時間駐車が多かった時間帯は、3000円/台(ロープウェイ乗車券2枚付き、2580円相当)をメインに設定し、長時間利用者をパーク&バスライドに誘導
パーク&バスライド	<ul style="list-style-type: none">雲仙小学校グラウンド(仁田峠駐車場まで約30分)に長時間利用者を誘導し、シャトルバスにより輸送(往路10分間隔、復路15～30分間隔を想定)

4. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
大山で行っている社会実験では、7kmの区間を交通規制し、車を通さずに、自然環境保護という目的で歩いてもらっている。仁田峠の場合は登山客をうまく分離すれば改善されるのではと感じている。また、池ノ原園地駐車場を登山客専用にするなど、登山客にどのように対応するかが、結論につながっていくと考える。	長時間利用者(登山者等)をパーク&ライドに誘導し、分離を図りたいと考えている。登山を目的とする方には、引き続き、池ノ原園地駐車場の利用を勧めていく。
地域の賛同を得ながら、環境保全の意味合いを強く打ち出していくのがよいと感じた。ETCを利用することで、駐車時間により、駐車料金を変えることができるので、やってみたらどうか。	実証実験やそれ以降において、十分な予算を確保できないかもしれないので、経費が掛からず、少ない予算で実行可能な手法を確立していきたい。
試みに、春に実験を実施してみてもどうか。	近年、春には渋滞が発生していないので、実験は行わない予定である。

5. 今後のスケジュール

新型コロナの影響により、スケジュールを見直し中

- 令和2年10～11月: 現地実証実験の実施(予約システムによる予約制・料金徴収の実施)
- 令和3年度: 令和2年度の結果を踏まえ、現地実証実験の実施、予算の確保